

東日本大震災

勝山市の支援状況

勝山市は、大震災直後の岩手県陸前高田市へ派遣した消防署職員の報告を受け、その被害の甚大さを知り、また、組織的支援の開始に1ヶ月近くかかることから、同市に対し独自に支援することを決定しました。また、被災住民の一時移住受け入れについても、今後も支援活動を強化していきます。(詳細はP10をご参照ください)

職員を派遣 行政支援

陸前高田市へ



戸羽陸前高田市市長(右)と面談する松村副市長(左)

福祉避難所の開設を支援

3月24日に山岸市長は、戸羽陸前高田市市長へ直接電話をかけ、その深刻な被害状況と組織支援の遅れから「住民の福祉向上を目指す仲間として、組織的な支援体制が整うまでの間、勝山市が独自の支援活動をしていきたい。」と伝えました。

これを受け、4月1日には松村副市長を含む職員4人が陸前高田市を訪れ、行政支援について現地協議を行いました。

その結果、陸前高田市からの要請により、市内90か所の避難所から要介護者を集め、支援を行う福祉避難所「生炭の家」託老所」の立ち上げおよび運営(期間4月30日まで)を勝山市がサポートすることになりました。

市内社会福祉法人も職員派遣に協力

介護支援チームを派遣

市の保健師や市内社会福祉法人からの介護職員、市職員で編成する介護支援チームの第1班を、4月4日に派遣しました。4月30日までの27日間に、5班体制で約60人の人員を派遣する予定です。



協議結果報告を受ける山岸市長

ご協力いただく施設など

4月10日現在(順不同・敬称略) 勝山市社会福祉協議会 さくら荘、さつき苑、鷲巣苑 大日園、シルバークエア九頭竜 サンビュウかつやま グループホームはなみずき たけとう病院 (有)大福交通(人員輸送協力)



「ホロタイの郷 炭の家」外観

業務内容

福祉避難所となるのは、山間の炭焼き体験施設「ホロタイの郷 炭の家」(陸前高田市矢作町)で、宿泊・入浴設備があるため、「生炭の家」託老所」として要介護者などの介護支援を24時間体制で行っています。すでに4月10日現在で15人の高齢者が入所し、サービスを受けています。



炭の家 要介護者受け入れの様子

届ける善意

被災地へ支援物資を輸送



被災地へ到着した輸送車

野菜などを被災地に!

3月31日に勝山市から支援物資を陸前高田市へ輸送しました。今回は、現地から特に要望があった緑黄色野菜、果物、菓子パン、調味料類を届けました。現地では、久しぶりに見る果物・調味料類に歓声が上がったそうです。

なお、調味料以外は、個人・法人・団体などからのご寄附です。

支援物資をご寄附いただいたかた (順不同)

- 長谷川農園様 ホウレンソウほか
- 加藤敏彦様 勝山水菜ほか
- JAテラル越前様 サトイモほか
- 八二一中吉様 キャベツほか
- 大同青果(株)様 //
- 八二一中吉様 菓子パン
- 勝山市役所職員互助会 果物類



被災地での物資積み下ろし風景 勝山水菜が届いた!

迎える善意

一時移住者の受け入れ

今後さらに

20家族以上の受け入れも

東日本大震災で被災し、福島県から避難してきた、(株)タニコ(本社東京)の社員8家族29人が、3月31日に雇用促進住宅鹿谷宿舎と定住促進住宅(旭毛屋)に入居しました。これに先立ち(株)タニコテック(大野市)の高柳一則社長が市役所を訪れ、山岸市長と面談し「とても早く対応していただけて感謝しています。」と、お礼を述べられました。



雇用促進住宅鹿谷宿舎への入居の様子

(株)タニコからは、さらに被災家族の移住要請があるため、勝山市では今後20家族以上を受け入れる準備を進めています。

今回、家族4人で移住された木幡明雄さん(38歳 南相馬市)は「ここに入居できてうれしいが、向こうに残った人たちのことが心配です。」と安堵するとともに現地を心配していました。

鹿谷町では、区長会をはじめPTAなどの団体が移住者への支援活動を始めるとのことです。

なお、(株)タニコ以外の移住者の受け入れも行っています。